

## さんねん 集会

18日、3年生の最後の学年集会に出してきました。今回の内容は、卒業ドラマの上映です。ずいぶん前から、撮影に入り、私も配役として参加しました。「謎の少女 依田 草(爽) よだ そう」ある日、清瀬中の3年生に芸能活動をする依田さんが転入してきた。転入生の依田さんと一人の少年が距離を縮まります。果たして、その存在は夢なのか実在するのか……。その謎を求めて少年と担任の先生が謎解きに出ます。校内を巡る二人が視聴覚室に入ろうとした瞬間、画像が実像となり、集会をやっている視聴覚室の扉が開き二人が登場。舞台と映像の融合。思い出の画像も謎解きに加わり終始笑いの絶えない上映会となりました。笑い合える集会を創ってきた生徒や先生方の姿を目に焼き付けました。



19日は、卒業式。9時を過ぎると、合唱練習が行われていました。最後の合唱に向けて階下まで歌声が響き始め、いつになく盛り上がっていました。歌に心がこもるとはこのこと。本番では、さらに歌声が響き渡り、聴く者の胸を打ちました。式終了後は校庭に花道をつくり卒業生を在校生みんなで見送りました。ご挨拶をいただいた保護者の中に「おかげ様で卒業することができました」と語ってくださる方がいました。むしろ保護者の方々の支えがあったからこそ素敵な卒業式となりました。



“おかげ様”という言葉に思い出があります。私の幼少期、母に連れられ、母の実家に帰省した時のことです。実家近くを散歩していると母に声をかけるご近所の方がいました。「あら、久しぶり!息子さん随分大きくなったね!」その言葉に母は返答します。「おかげ様で。」このシーンに疑問を抱いた小澤少年は、ご近所の方から遠ざかると「なんで?僕が大きくなったのは、あのおばちゃんのおかげなの?」と問いかけます。母は「あのおばちゃん家にはよく行ったの。お母さんが小さい頃よく遊んでもらったのよ。とってお世話になったの。そうやって大人になってお父さんと知り合って、あなたが生まれたのだから、あのおばちゃんのおかげでもあるのよ。」小澤少年は「そうなんだ、じゃあさあ、なんで“おかげ”に様をつけるの?」母は「日本語って大切なものに様とか“さん”をつけるのよ。おばちゃん“おかげ”は、お母さんにとって、とってお世話だったのよ。」一字一句ではありませんがそのような当時の会話を覚えています。「幼稚園でも教わったでしょ。おべんとうばこのうた!にんじんさん、ゴボウさん、あなのあいたれんこんさん♪。おおきくなるために大切だからだよ。」そういえば、育てていた金魚を「金魚さん」、枕もとに飾った熊のぬいぐるみを「くまさん」と言って大切にしていました。大切なものに“様”とか“さん”を誰もが幼少期からつけていた経験をおもちでしょう。大人になった今でも「ご苦労様でした」誰かの“苦労”があったからその問題が解決し、「お疲れ様でした」誰かの“疲れ”があったから、新しいことが生産されているのですね。素敵な日本の文化です。

保護者の皆様、おかげ様で、今年一年間の教育活動を終える事ができます。御礼申し上げます。毎週掲載した『校長室より』も今回をもちまして令和7年度・最終回となります。毎週、快活愉快的な気持ち“みんなで幸せになる”文章を目指して生徒の活動をご紹介しますから書き進めて参りました。来年も継続するつもりです。よろしくお願い申し上げます。一年間、お読みいただきありがとうございました。



まもなく令和7年度の日が沈みます。そして、すぐさま令和8年度の日が昇ります。

Rising Sun

英語圏でも大切なものに“さん”を付けるようです。